

横

YO KO HA MA

浜

人びとが語る激動の歴史

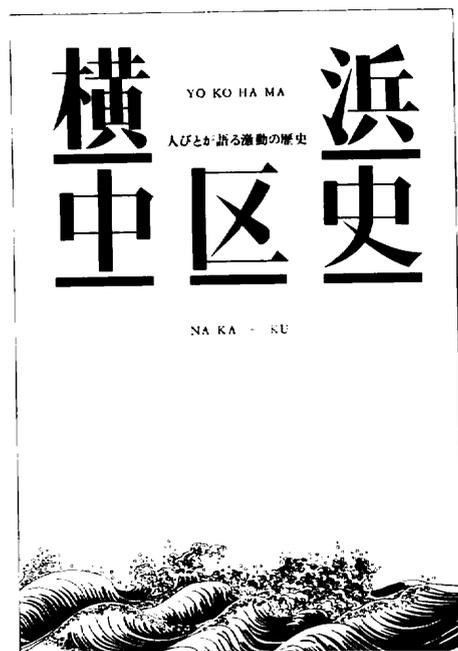
中

区

史

NA KA - KU





中区民相談室

## 刊行にあたってのご挨拶

中区制五〇周年記念事業実行委員会 会長

上野 豊

ここに『横浜・中区史』を刊行して、皆様にお届けいたします。

昭和二年十月一日、横浜市区制がひかれ、すでに五十有余年を経過いたしました。市民は経済恐慌・戦争・戦災・接収など大きな苦難を経たのでありますが、なかでもこの中区という場とその市民こそ、苦難のうねりをまつさきに蒙り、その防波堤となりながらもこれを切りひらき、大都市横浜を今日にあらしめた重要な役割をはたしてきたものと思えます。

こうした中区の歴史をなんとか後世に残すべきものとして、昭和五十四年本書刊行を企画、事業が起されました。以来、市民の皆様から数多くの資金・資料のご提供とご協力をいただき、おかげをもちまして、この度、発刊することができたものであります。

本書は全体を三編に分けました。中区を中心とする都市の形成・発展の概要を沿革編に、区内の地区毎の変遷のありさまを地区編に、昭和の市民の苦渋を市民編に、というように記述いたしておりますが、これらはいずれも概要でありまして、その全貌は記述しつくせるものではありませんでしたが、いく多の困苦に生きつづけた市民行動の軌跡・市民の歴史を少しでも残したつもりであります。

いま、横浜市や神奈川県は、未来に向って、次の世代の人々のために格段の努力がはらわれておりますが、温古知新、本書もその資料の一つに加えていただき、横浜市、そして神奈川県の実業遂行のための資料の一つとしていただければ幸と存じます。

本書は、市民・業界・各種団体の皆様から基金や資料をご提供いただいたほか、数多くのご協力をいただきました。また編さん・刊行の事務にあたった関係者からもたいへんなご努力をいただきました。それに、わざわざ神奈川県知事・横浜市長・中区長からお言葉を寄せていただきました。

ここに、本書の刊行にあたり、皆様方のご厚意にたいし、厚く御礼を申しあげご挨拶いたします。

## 『横浜・中区史』の刊行に寄せて

中区長 有坂 昇

このたびの『横浜・中区史』の発刊を心よりお祝い申しあげます。

横浜市の区制は昭和二年に施行されて以来、すでに五十七年を経ましたが、実にこの間は、苦難の連続の時代であり、この苦難を血と汗とをもって私どもの先人が克服したものであります。中区が今日こうしてあるのも、これらの人々のおかげと存じます。

しかし、そうした先人の歴史となると、県、或いは市レベルでは刊行されておりますものの、いまだ中区ではまとまった本の刊行がないまま現在にいたっておりますところ、今回、中区制五〇周年記念事業実行委員会のご努力によって、これまでなかったスタイルにより区内各地区の発展過程、先人の苦渋や活動の一端が歴史として残されましたことは、区民の皆様とともに、まことに喜ばしく、ご同慶に存じます。

この本が刊行されるにあたり、区民の皆様の大なるご協力と、実行委員会の方々のなみなみなご努力にたいして深く敬意を表します。区史発行にあたり区民の皆様とともに、これからの中区の発展を願い、お祝いのご挨拶といたします。

## 「横浜・中区史」の刊行に寄せて

横浜市長 細郷道一

安政六年（一八五九）、時代の変革の中で横浜は開港しました。戸数一〇〇にも満たなかつた寒漁村は、突然、世界の表舞台に立たされました。以来、横浜は日本の窓として、海外の進んだ文化や風俗の流入人口となり、奔流のように沸きたつ文明開化の先駆けを務めてきました。それがわずか二六六年の間に、他に類を見ないほどにダイナミックな発展を示し、今や人口二九五万の日本第二の大都市へと成長しています。しかし、常に順調な発展だけだつたとはいえません。関東大震災、昭和の経済大恐慌、大空襲、戦後の接収等、日本の近代史の縮図ともいえる苦難の歴史を経ています。

これらの苦難と試練を乗り越えて、さらに輝やく横浜の歴史をもたらししてくれたものは、それぞれの時代を生きた市民の英知と努力の積み重ねに他なりません。

開港二六周年に当り、横浜の歴史の縮図ともいえる『横浜・中区史』が刊行されることを皆さんとともに心から喜びたいと思います。

私は中区民として、この区史をひもとくとき、日ごろ散策する山手の丘や海岸通りが、古い街並のたたずまいや街路樹が、中区の歴史を語りかけてきて、その風景に一段と歴史の重さを感じます。それだけに、この区史の編纂にはいろいろと趣向がこらされているのです。文書資料をただ単に集大成したのではなく、関係者が足で歩いて区民の中に入り、一つ一つ収集した証言によつて構成された区史だからでしょうか。区史を一面的にとらえず、人々の中に生きた世相と風俗を多面的に掘りおこした「区民の談話による区民の歴史」といえましよう。

横浜は今、二十一世紀を控えて、歴史の一ページを大きく開こうとしています。港の入口では「横浜ベイブリッジ」の海上工事の槌音も高く、港奥部では帆船日本丸の保存や美術館建設を含む横浜の新都心づくり、「みなとみらい21」事業も日ましに進展しています。また市内全域にわたつては「よこはま21世紀プラン」により、都市基盤整備や市民利用施設が着々と充実し、さわやかに住みよい街づくりが進行しています。

このように、かつて、海外の先進文化・技術の摂取に専心してきた横浜は、これからは日本ばかりか世界をもリードする国際文化都市として、未来へ飛躍しようとしています。

こうした時代の変革の中で、『横浜・中区史』の刊行を得たことはまさに温故知新、二十一世紀への横浜の街づくりを進めるに当って、大きな糧になることを信じて疑いません。

## 「横浜・中区史」の刊行に寄せて

神奈川県知事

長洲 一二

『横浜・中区史』の発刊を皆様とともに喜び申し上げます。

私たちは、今あまりにも早い時の流れと急激な都市化の波の中で、ともすると先人たちの残した郷土の歩みを振り返るゆとりをなくしてはいないでしょうか。

こうしたとき、中区制五〇周年記念事業実行委員会の皆様が、貴重な写真や資料、生きた生活者の声などを地道に集め、区史を編さんされましたことは、大変意義のあることだと思えます。

「将来に対する最上の予見は、過去を顧みることにある」という名言がありますが、地域に埋もれた歴史を掘りおこし、今に伝えることは、私たちのあり方を考える上できわめて大切なことです。

そんな意味を含め、私は神奈川の「過去そして未来」に、よく思いをはせることがあります。最近の百年余を振り返りますと、横浜は三度ゼロから出発し、二度日本を引っ張るトップランナーの役割を果たしてきたといえます。幕末の開港、明治の文明開化によって、新しい歴史を象徴する数々のものが、世界中からまず横浜に導入され、ここに誕生し、全国にひろがっていきました。また関東大震災の時は、その瓦礫の中から京浜工業地帯が建設され、潰れたレンガの埋め立てによって山下公園ができました。そして戦災と接収。この時も同じ瓦礫の中から日本きつての重化学工業地帯が育ちました。

このように、ミナト・ヨコハマは、とりわけその象徴ともいえる中区は、常に時代の幕開けを担ってきました。非常に生命力に富み、豊かな人材を吸収する開放的な社会、これがこの地の誇る伝統だと思えます。

こうした輝かしい伝統は、県内のいたる所にも見られ、脈々と生きています。私は、神奈川の魅力的な歴史と文化、その中で培われた人々の生活をさらに表情豊かなものにしていきたい。こう考えて、現在、神奈川の自然と歴史を踏まえた県土のブランド・デザインとしての「かながわ・くにづくりプラン」を県民の皆さんとともに練っています。現代にふさわしい頭脳型の技術、産業、雇用を興しながら、現代のまちを、都市を、県上を築き、文化の香り高い、そして世界に開かれた遺産を子や孫に残していきたいと考えています。

このかながわくにづくりの実現のためにも、近代日本の重要な舞台となった中区の歩みは、大きな示唆を与えてくれるものと確信しています。

一人でも多くの方々が、この『横浜・中区史』を手になされ、新しい郷土づくりの手がかりとされることを希望しております。

---

それは中区 扇谷義男（詩人・横浜文化賞受賞）

この 篝火を絶やさぬために

みんな額に血の汗をしたたらせ

しっかりと守り 育ててきた

中は すべての中心という意味だろう

無限にひろがる円周の軸として

いつも小さな背中に重荷を負ひ

船の羅針盤は狂ひなく

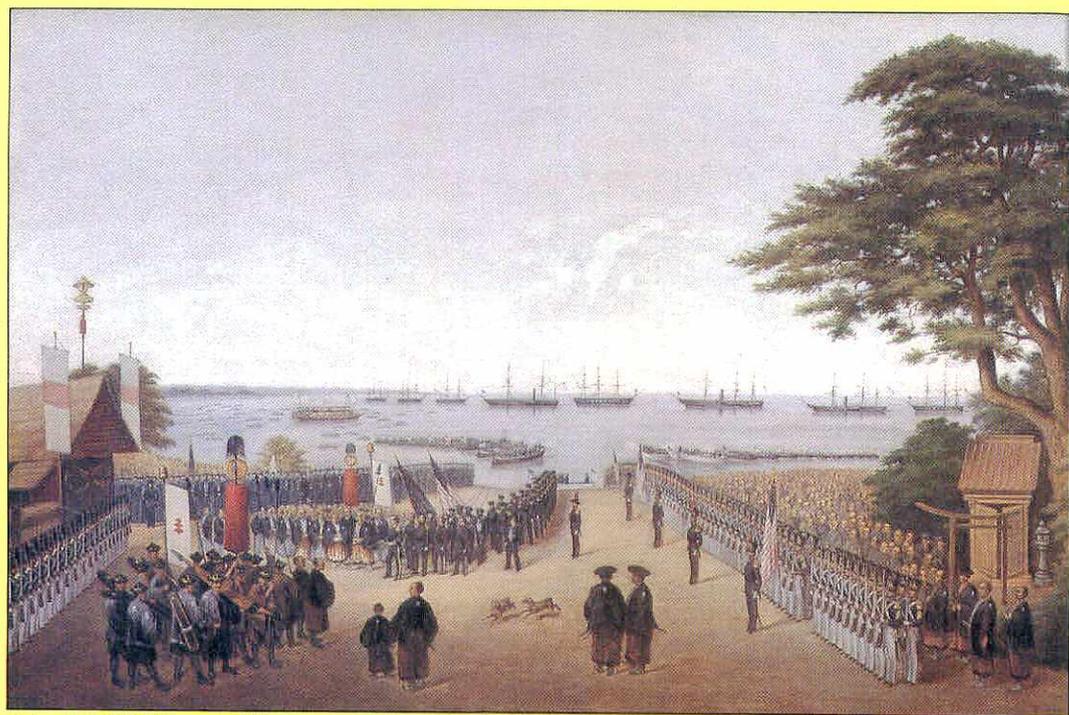
時は充実して地球をめぐり

さて ここで問題です

せり上がる万葉の花となりけり

とは いったい何んでしよう

---



ペリー提督横浜上陸 ハイネ筆

横濱 海岸 波 場 繁 榮 之 圖



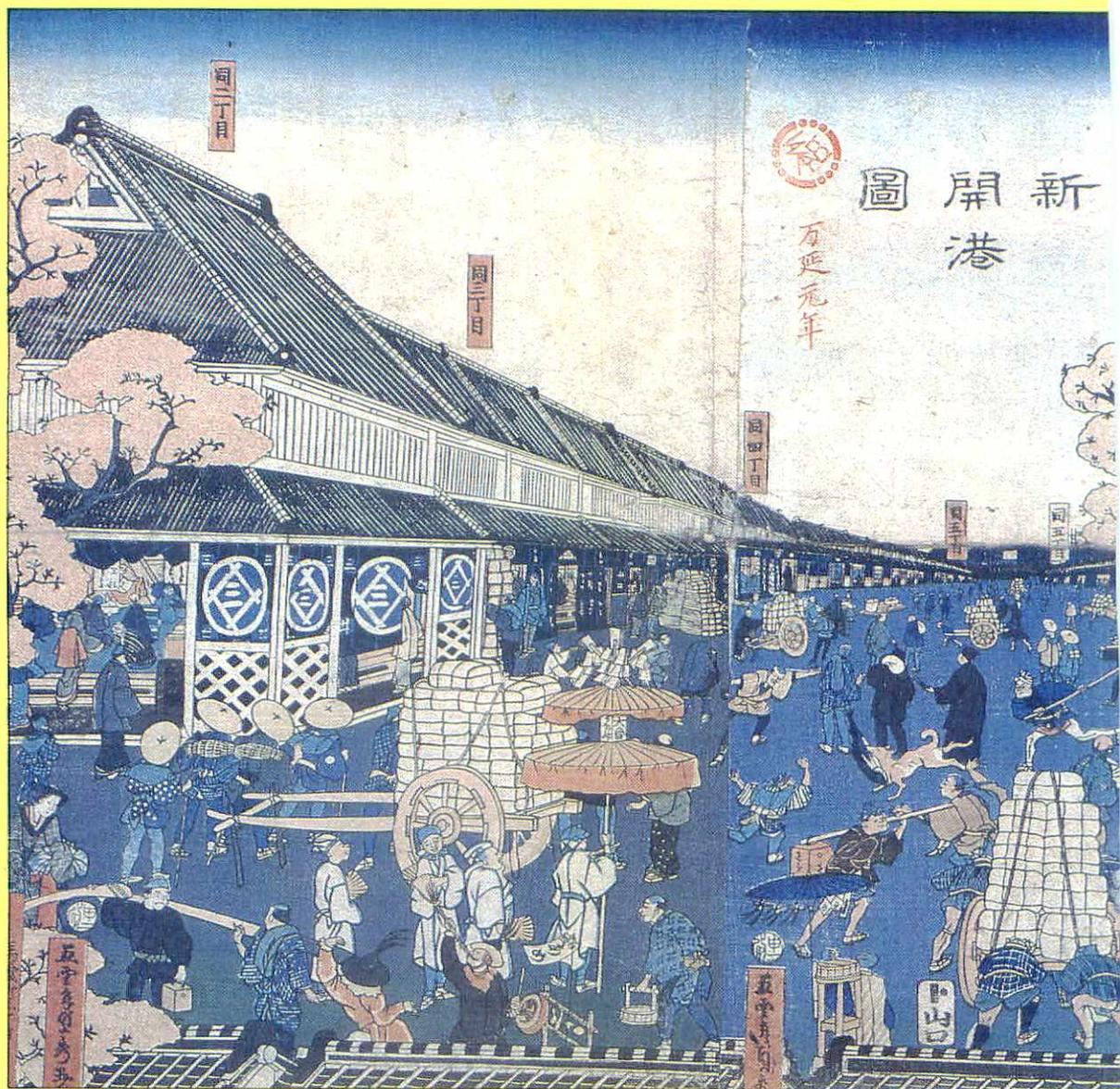


豊一川 万員画

横浜海岸波戸場繁栄之図

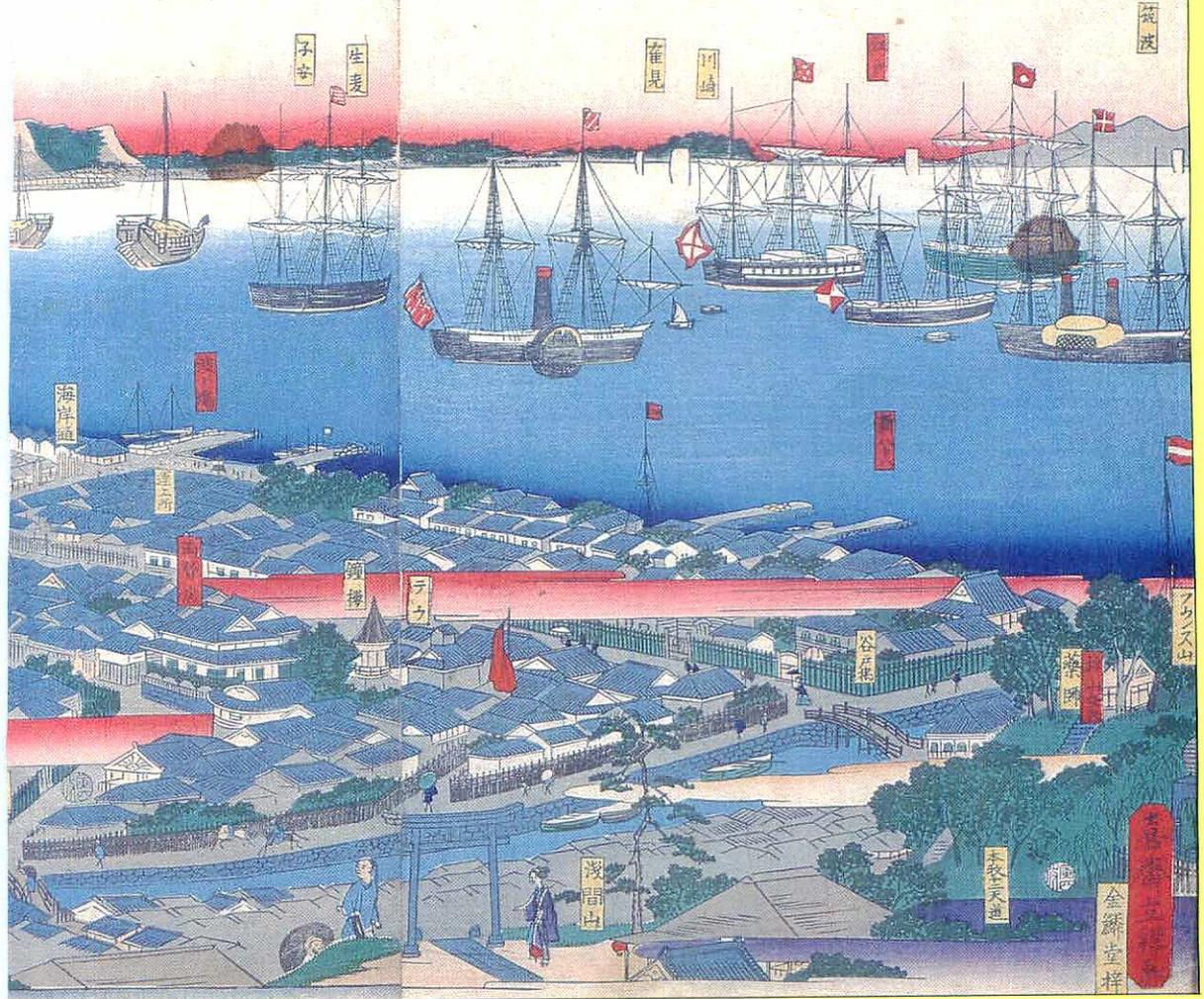
神名川 黄齋





神名川横浜新開港圖

武陽黃



生麦  
子吉

川崎  
崔見

筑波

海岸道

三浦

磯橋

テウ

公爵様

松林

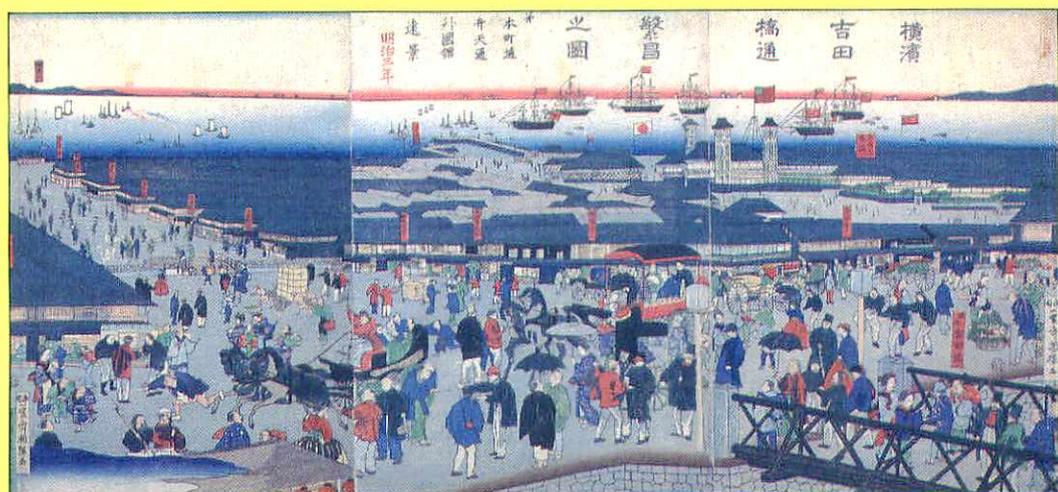
アウンス山

浅間山

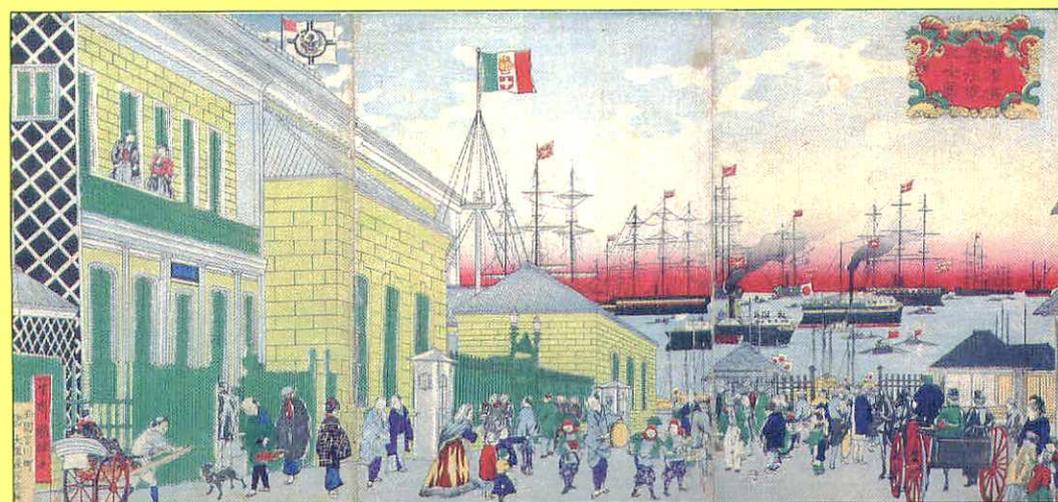
本牧 天通

全羅堂 梓





横濱吉田橋通繁昌之圖并本町通外國館遠景



横濱佛國役館之全圖

横浜・中区史

総目次

## ●凡例

- 1、本書は沿革・地区・市民の三編とし、沿革編と地区編は開港期から現在、市民編は昭和の初期・中期を記述の対象範囲とした。
- 2、沿革編では主に都市の成立・発展の概要を、地区編では地区毎の変遷概要をそれぞれ編年的に記述した。(ただし現在の施設の紹介は原則として公共的なものに限った)市民編では市民(区民)生活に直接かわる市民行動の一端を紹介した。
- 3、本文中の人名には、敬称を略した。また、引用資料の刊行年は明治は明、大正は大、昭和は昭、のように、それぞれ省略した。
- 4、年号は元号を用い、必要に応じて( )内に西暦を記入した。
- 5、記述に当たっては、現代かなづかい、当用漢字を原則としたが、一部例外もある。
- 6、人々から提供いただいた資料(写真・文書・手記・出版物など)や談話は直接、間接にかかわらずほとんどを使わせていただいた。
- 7、歴史的な慣用に従い、今日では適切でない語句を使わざるを得なかった部分もあるが、本書利用の際には、人権尊重のうえから十分にご配慮を願いたい。

発刊にあたってのご挨拶……………中区制五〇周年記念事業実行委員会会長 上野 豊

横浜・中区史の刊行に寄せて……………中区長 有坂 昇

横浜・中区史の刊行に寄せて……………横浜市長 細郷道一

横浜・中区史の刊行に寄せて……………神奈川県知事 長洲 一一一

巻頭詩 それは中区……………0007

口絵……………0009

凡例……………0018

## Ⅰ 沿革編……………0025

第一章●都市のあけぼの……………0028

第一節●横浜開港……………0028

第二節●新生横浜……………0038

第三節●横浜港と居留地……………0044

第二章●近代都市の形成……………0050

第一節●地域の拡張……………0050

第二節●中区の成立……………0063

第三節●戦災と接収……………0079

|              |      |
|--------------|------|
| 第三章●みらいの都市へ  | 0094 |
| 第一節●戦災復興     | 0094 |
| 第二節●接収解除     | 0100 |
| 第三節●これからの都市へ | 0106 |

鐘の鳴る丘が街に流れた頃―写真集

## II 地区編

|              |      |
|--------------|------|
| 第一章●素顔の中区    | 0154 |
| 第一節●中区の地勢    | 0154 |
| 第二節●中区の都市計画  | 0162 |
| 第三節●区域の変遷    | 0175 |
| 第二章●関内地区     | 0192 |
| 第一節●開港場として   | 0192 |
| 第二節●港とともに栄える | 0228 |
| 第三節●関内回生     | 0250 |
| 第三章●山手・山下地区  | 0286 |
| 第一節●外国人居留地   | 0286 |

|                     |      |
|---------------------|------|
| 第二節●瓦礫のなかから         | 0315 |
| 第三節●中華街彩色           | 0342 |
| 第四章● <b>関外地区</b>    | 0374 |
| 第一節●関外誕生            | 0374 |
| 第二節●日本の盛り場          | 0405 |
| 第三節●外国領土からの復活       | 0428 |
| 第五章● <b>野毛地区</b>    | 0472 |
| 第一節●野毛地区登場          | 0472 |
| 第二節●庶民の町として         | 0490 |
| 第三節●異臭のなかから         | 0522 |
| 第六章● <b>元町・石川地区</b> | 0557 |
| 第一節●横浜村から           | 0557 |
| 第二節●横文字と職人の町        | 0573 |
| 第三節●ザ・MOTOMACHI     | 0590 |
| 第七章● <b>北方地区</b>    | 0605 |
| 第一節●居留地の周辺          | 0605 |
| 第二節●震災のあとに          | 0621 |
| 第三節●戦後の北方           | 0640 |

第八章●本牧地区……………0653

第一節●豊かなる海……………0653

第二節●近代への脱皮……………0679

第三節●最大な接收地区……………0694

第九章●根岸地区……………0738

第一節●根岸村から……………0738

第二節●変転のもとに……………0755

第三節●重ねる変転……………0772

付 章●横浜港……………0801

第一節●変遷概要……………0801

第二節●港の施設……………0819

第三節●海景……………0836

ひと・ひと・ひと——明治から昭和の表情……………0849

### III 市民編……………0913

第一章●戦争の足音を……………0914

第一節●昭和改元……………0914

第二節●市民防空……………0924

|                  |      |
|------------------|------|
| 第三節●がんじがらめ       | 0938 |
| 第二章●落下する火に       | 0956 |
| 第一節●市民参戦         | 0956 |
| 第二節●やりきれない時代     | 0974 |
| 第三節●逃げまどう市民      | 0998 |
| 第三章●接収の街で        | 1011 |
| 第一節●その日暮し        | 1011 |
| 第二節●星は流れる        | 1039 |
| 第三節●解除運動         | 1056 |
| 付    章●区    民    | 1076 |
| 第一節●人口           | 1076 |
| 第二節●区民の仕事        | 1085 |
| 第三節●区民の組織        | 1092 |
| 参考資料一覧           | 1102 |
| 基金提供者            | 1106 |
| 資料提供者            | 1130 |
| 中区制五〇周年事業実行委員会名簿 | 1144 |
| 中区を空から見る         |      |
| あ    と    が    き |      |